

登録10年の取り組み報告⑨

綾ユネスコエコパークの運営

綾町は、自治体主導でユネスコエコパーク（BR）に登録申請した国内初のケースです。そのため、国内にBRの管理運営を担う組織体制の参考になる



地域がなく、数年にわたり試行錯誤を繰り返しながら、綾町独自のBRの運営組織体制がつけられていきました。  
BR世界ネットワーク定款（WNB）に準じた体制づくりを柱に、現在、責任主体である綾町役場の1部署「ユネスコエコパーク推進室」が事務局を担当しています。  
運営体制としては、事務局案に多様な主体の意見などを織り込みながら原案を練り上げ、責任主体の総意の案として承認し、関係団体や関係主体の代表者からなる綾BR地域連携協議会を最終の決定の場としています。詳しくは上の図をご覧ください。

綾BRの事務局としてのユネスコエコパーク推進室は設置当初、役場内にありましたが、情報の収集・発信拠点としての機能を果たせることを目的に、国の交付金を活用して綾中央病院だった建物を改装し、2018年に綾ユネスコエコパークセンターを開設しました。  
センター内には、綾BRの取り組みの歴史や自然に関するパネル、一部生体展示を用意する展示室があるほか、会議室や調理実習室、大学などのサテライトオフィス、貸しオフィス、研究に伴う簡易宿泊施設、ユネスコエコパーク推進室の事務所が入っています。  
新型コロナウイルスの影響で閉館することがあったため、この1〜2年は利用者が減少していますが、年間5千〜8千人が来館し、さまざまな活動を行っています。



ユネスコエコパークセンター

子どもの見学も多い展示室

環境学習『森の健康診断』

昨年からスタートした「森の健康診断」。これは、綾中学校1年生が綾町イオンの森（割付町有林）で行っている環境学習です。

木を植えるという取り組みは、地球温暖化防止や生物多様性保全の観点で重要なものです。「森の健康診断」は、樹木の測定により森が1年間に吸収する二酸化炭素量を把握する、という、植樹の取り組みからさらに踏み込んだ視点で進められています。

昨年測定した対象木174本は、約1



735kgの炭素を蓄積していたことが分かっています。これは、レジ袋に換算すると545万枚に当たる量です。2年目からは、前年のデータと比較することで1年でどれくらいの炭素が蓄積されたかを知ることができます。植樹の効果を数値で把握できる「森の健康診断」。環境保全活動の意義を深く理解することができる環境学習になっています。

この取り組みには、人工衛星のリモートセンシング技術という先進技術が活用されています。中学生が測定する樹高と人工衛星が測定した樹高との比較から、人工衛星の測定精度を向上させることができ、生徒たちの活動は環境保全の推進と最先端の科学技術への貢献という2つの成果を上げることになります。何だかワクワクしませんか。

綾ユネスコエコパーク推進室・綾ユネスコエコパークセンター  
☎77-3482 URL <https://ayabrcenter.jp> ※エコパークセンターは毎週日・月曜日および祝日休館  
感染症の影響による休館等の情報はホームページで随時更新します

column

トラツグミ

今年の干支は寅。トラと名前のつく生きものには美しい模様がある種類が多いのですが、町内に生息する本種もそのひとつ。トラツグミは、頭から胸まで美しい虎斑模様の羽で覆われています。

大きさはヒヨドリくらい。普段は昆虫やミミズなどを食べて生活しています。昼間の姿はかわいらしいのですが、その存在を強く印象づけるのは夜から明け方にかけて響く鳴き声です。暗闇で「ヒィーイ」ともの悲しい声でさえずることから、昔から不気味がられ妖怪に例えられていたこともあるのです。何事も偏った情報だけにとらわれるべきではないという良い事例ですね。

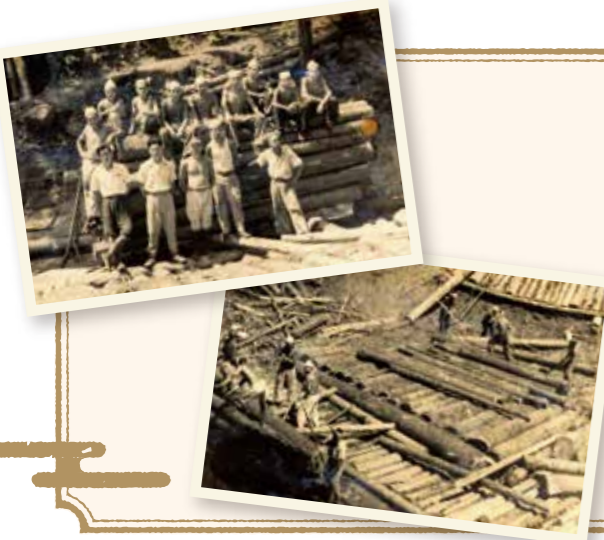


ムラの肖像

1940年代に撮られた林業の様子です。

林業が盛んだった竹野地区には営林署の支所がありました。竹野地区の人々以外にも、町内や国富町から伐採作業や運搬作業に来ていた人も多く、空道地区にあった寮で生活していたといわれています。

伐採された木材は町中心部にあった貯木場に運ばれました。町内には数多くの製材所があったそうです。その後林業は衰退し、主産業は養蚕や畜産を含む農業に移っていきました。



※令和2年から町内の小規模集落で行っている「綾の肖像プロジェクト」で集めた写真の中から紹介します